

兵庫縣内植物採集日誌

故 田 代 善 太 郎

本日誌は田代先生の遺族の御好意によつて同先生の日誌より兵庫県関係の部を抜萃して戴いたものであります。仮名遣いは特によい思い出となると思われるので原文のままとしました。(室井)

昭和6年8月 奥谷國有林採集

8月16日

小松島発〔註四国剣山の採集の帰途〕10時帰航の途につき船是和歌山に立寄り兵庫にゆく、下船して汽車にて姫路に至り阿部氏の宅に投す。近藤安太郎(多可郡中町長)同宿。

8月17日

自動車にて山崎に至り上野に至り中山署長にあひ、客ドロにて赤西谷まで行き会員を両分して我は赤西まで初歩のものを指導してゆく(会員60名ばかり)

コウバチノキの実をつけたものがあり、ツルキケマンあり、所謂クマシギの特異の形態を見る。

小畔四郎氏(粘菌研究者) 苦爪恵三郎氏(兵庫第一高女教諭) 中谷喜久二郎氏(山崎営林署員) 参会、夜茶話会あり

8月18日

赤西の溪谷に沿つて上り峠を越して音水に下る。赤西溪にてタイミンガサをとるもの一人あり、音水に下る溪谷にはタイミンガサ多し

夜中山署長の講話あり

8月19日

朝採集品を処理し「トロ」にて帰途につく、インクラインの処にて下り荷物丈の束をおろす、脱線のため歩して、赤西口までゆく、又「トロ」にのり小学校の所にて車をとどめて食事をなし講演をすませて上野の土場につき会員、それぞれ自動車にて姫路 其他に向ふ。

(註 右講演の要旨は「奥谷國有林植物概観」にて昭和7月4日兵庫県博物学会会誌第参号奥谷採集記念号に掲載さる。)

10月10日 雪彦山採集

(別項雪彦山植物概観参照 室井)

姫路に至る幹部の人々に迎へられ橋岡氏にあひ自動車に徒歩をともし山の内に至り、(其間採集)小学校に上る、西本氏、柏屋氏周旋をつとむ。夜に会員採集の標本を見る。

高等学校教授桶貫氏同行

10月11日

岡田繁氏、柏尾三郎氏の案内にて雪彦山の裏手にて採集を試み神社の方に下り柏尾氏の宅にて雪彦山植物目録の記入を試み自動車にて山の内を下り目録記入を了し姫路にかへり、西本氏の官舎にとまる。

昭和7年8月16日 書寫山採集

岡山を経て姫路に向ふ、8時頃着く西本、相原の両氏に迎へられ西本氏に落付く。

8月17日

書寫山に西口より登りて植物を記録す可なりに種類あり、ナツサドリを西本氏採集しコヤスノキを飯田氏採集す(アトデワカル) 午食後山上を一通りまわりて東口より下る。

8月18日

腊葉検定を求むるもの室井紳外数人あり又師範学校の採品を見る。

コヤスノキの上郡地方ニケ所に又神崎郡、中寺村出師に産するを知る。

昭和7年9月9日

下関——尾道にて起き日誌を認め、上郡駅にて飯田氏や室井紳氏に迎へられ鳥取旅館に落つき午後赤穂に至り華岳寺に養し城趾を見る先づ大石神社に詣で、本丸にたてる中学校に博物教員をたづね(竹中虎彦氏) 赤穂御崎の植物をみてかへり夜諸氏の不審とせる植物腊葉を見る、西本氏来り同宿

9月10日

別所、室井、山中(宮崎高農生) 西本氏等と矢野村三濃山採集行をなす。

羅漢溪にてコヤスノキを得(苗も可なり取る) 登山途中の溪谷にてチトセカヅラを得たり。

昭和9年5月19日

午後2時12分の列車にて播磨に向ふ。姫路にて会ふ筈の阿部氏の姿を見ず、不審に思ひて約束の時を誤りたるを知る。室井氏に迎へられて、あみやに投す。

5月20日

朝アツマツメクサの産地に至りて採集す。自動車にて往復。

8時20分の列車にて上郡に至り赤松村に向ひ会員の採集を指導し岩木小学校に至る雨のため午後の採集を見合せ話をして引き返し午後4時50分にてたつ。

9月8日

急行にて姫路に向ふ、上郡にて松岡氏、室井氏に迎へられ自動車にて鞍居村に行きモ、の産地つづら谷、

本谷を見、きわたり谷を遠望す、本谷大分なつてゐる所あり、自動車にて有年にかへり松岡氏宅にとまる。

昭和8年4月 多可郡千ヶ峰採集

4月22日

京都午後1時発車中採集の書類を見又室井氏の目録を見る。

加古川にて阿部氏等に迎へられ鍛冶屋町まで行き、それより松井庄村多田までゆく、公会堂にて講話、前田万治郎氏宅にとまる。

4月23日

朝6時出発、千ヶ峰山に登り採集を指導す。タムシバ、フサマクラ花あり。

部落の人々予め山のサへを切り払ひ茶、酒の馳走をなしてくれたり。ヤマザクラ多く麓にはタブノキの大木あり、アラカシ麓まであり中町の町長近藤安太郎氏郡の教育会長として採集のため尽力せらる。

〔註 採集終了後「千ヶ峰の植物相」と題して講演をする、要旨は兵庫県博物学会誌第九号記載〕

昭和8年11月 播磨神崎郡七種山採集

11月18日

姫路に向ふ、西本氏に迎へられ同氏宅に泊る。福永利雄氏の標本を見る。

11月19日

西本氏と姫路駅に至り福崎に向ふ。下車ののち撮影七種山採集会を指導し頂上に登りて下り4時25分の列車にて姫路に至る。

○七種山木本—主木は針葉樹なり、モミ、ツガ、スギ、赤松、カヤ、イヌガヤを見る。其中に混在するのはアラカシ多くウラジロガシ、アセボ、シキミ、サカキ、ソゴ稍多し、ヒサカキ、イヌツグ、シロダモ少、タラエフまれ、コヤスノキまれ、クロソゴ、アラカシ、ヤマイバラ、クヌギ、ヤマザクラ、バイクロツツジ、ベニドウダン？チノヘヤナギ。

昭和9年8月 小金嶽連峯採集

8月16日

小金嶽の植物を採集せんとて篠山町駅に集合し自動車にて其麓に至り草の繁れる狭き道を通りて登る。中腹以上は岩石なれど之に生ずる種類は乾性植物に限りて其数少なし、山頂より峯を伝ふて三岳との鞍部に至り裏側に下る。峯続きの北側には意外にも数種の注意すべき羊歯を生ず、またホツハツ、クロソゴを産す。裏にスギの自生をモミ、ツガと共に見るを得べきもあり、畑山地内より上り草山村地方に下る。

本山は岩上植物其他植物生態の上より記事を認むるを可なりと思ひ、室井氏に其注意を与へあとには之を記さしむ。

山を下りて自動車道路に出て黒井町よりの通り車に

て同地に至り松の屋に泊る。

8月17日

藤原氏の案内にて妙高山にのぼり、神池寺住職兼種氏の好意により寺務所に休憩のち山頂を極む大樹と杉、ヒノキとを交え、自然に近き林相をなし墓木のよく発育せるものあり。

鴨庄村に下り市島駅より乗車、柏原に至りケヤキの大木の根が川を渡り居るものあり。兵庫県は之を天然記念物となす。霧月楼にとまる。夜講話

8月18日

自動車にて高見城山麓に至り山頂に登り、溪谷に沿ふて下る、生態第1日に類す。溪谷にはやや之に適応したる種類あり。寺に休憩自動車にてかへり、川崎、室井両氏と残り採集記事をまとむ。

8月30日 中央栗郡ヶ鹿臺採集の見學

姫路着阿部氏其他に迎へらる、楠氏

自動車にて富柄村皆河善照寺、ついで徒歩にて岡村、中食のち採集見學、其下の部落より姫路駅にひきかへす。

9月26日

朝日高浜発(室井京京都府)網野に至る、土橋氏遠藤伝氏(豊中)あり小学校に至り上原清九郎校長外一名と松林砂丘の墓地や砂丘にシホギク類をさがす。

東西墓地には之を見たれど他には見出す能はず。

墓地にも水仙も亦多し、日吉神社銚子山、其他を見て午後5時豊岡駅にて秋山氏の出迎をうけ中井旅館に泊る。

9月27日

朝土橋、遠藤の両氏と豊岡を出て浜坂に至り小学校長の好意にて案内を得採集してから三尾にいたり小学校にて午饗校長真先如水氏の世話にてみさきに至りわかれて余部陸道をすぎて豊岡に至り4時50分発列車にて豊岡にかへる。

昭和10年6月 氷上郡栗鹿山採集

6月29日

夜來雷鳴豪雨、ともかく採集行の支度をして自動車をはひろひ駅に行く、加茂の橋梁落ち街路水をたいたたるをザブザブ車も人もゆく福知山線接続程よく行かす大阪に1時間、三田に1時間待ちて柏原にゆく島崎氏迎ひくれ、共に石生にゆき細見氏にあひ、旅館に泊る。同宿四人の腊葉を見てやる。

6月30日

味爽起きいにて自動車にて柏原に至り鐘ヶ坂(サクラの名所)あたりの山のチヤの自生を見ひきかへして神楽村に至り栗麻山にのぼる風雨相伴ひすぶねれとなる。小学校にて着物を乾かすため世話になる。

昭和12年6月13日

加古川地方ノハナシヨウブ踏査

播磨に向ふ大阪駅にて堀氏其他同車、加古川駅につ
き松本氏、島崎氏、阿部氏等に迎へられ播丹鉄道にて
厄神に下車、加古川畔採集趣上(印南郡、上庄村地
方)加東郡来栖村神社にて食事、バスにて小野町にゆ
き其北部にある第2の池の畔にノハナシヨウブ等のあ
る所を見る。

昭和14年8月兵庫県船越山採集

8月2日

姫路線徳久駅に下車バスをつきやがて採集しながら

南光坊にゆく。

船越山にはモミ、ツガ、カヤの天然林あり、栽植し
たるスギの発育見事なり、植物の種類亦発育よく豊富
にもある様になり。

8月3日

朝飯前坊附近並木道のあたり再見

のち奥の院まで上りて採集をなす。室車といふも可
なり、コバノクロウメモドキの小喬木状なるあり、イ
ヌブナを見る、下り別路をとりて誤り可なり難儀せ
り。

三丹地方の植物生態地理学的考察

故 田 代 善 太 郎

三丹地方に於ける植物生態分布は中国山脈及丹波山
地の地形と地質とにより植物相を異にするが故其地帯
を分てば下の2地方区となる。

古成層地方区 火成岩地方区

又海流の影響による植物の生態分布につき後者の中
に沿海地方区を認むることを得べし。

○古成層地方区

此地域には丹波の大部分之に属し中国山脈脊梁の北
側と丹波山地とをつくる秩父古生層にして岩質は礎岩
類、千枚岩、頁泥板岩、石灰岩等最多し、礎岩の特殊
地形をなせるもの亦多し、本区の代表植物次の如し。

- モミ、○ツガ、○ツブラジイ、アラカシ、○イチ
- イガシ、ナ、メノキ、○カウヤマキ、○カナメモ
- チ、○タマミヅキ、(神並山其他)、ヒイラギ、○ヨ
- グツミネベリ、○ヨコグラノキ、(岩戸山)カラスザ
- ンシヨウ、○ノグルミ、○ブナノキ、ミズナラ、オ
- ニグルミ、○モチツツジ、ミヤコツツジ、ヒノキバ
- ヤドリキ、○ホンシヤクナゲ、ルリミノキ、○サル
- マメ、○オニヤナギ、イヌガシ、(小金嶽)、○セン
- リヤウ、○ホウライカヅラ、ナガバジユズネノキ、
- ヒカゲツツジ、ヒロハイヌコリヤナギ、○ヒラオ
- ヤナギ、○ナガバネコヤナギ、○ベニドウダン、○
- サラサドウダン、クロシヨゴ、ヤブサンザシ、ヤマ
- ガシウ、○イハナシ、○イハウチハ、サイカチ、カ
- ワラハンノキ、○サツキ、○ニキヤナギ、ヒメウワ
- バミンウ、オオサンシヨウソウ、カガリビソウ、ニ
- キワリイナゲ、○フサナキリスゲ、オモト、キチジ
- ヤウソウ、セキコク、カヤラン、○ナツエビネ、○
- ヒメユリ、○ヒナラン
- ヤシヤゼンマイ、オオフジシダ、フジシダ、ホン
- バフジコケシノブ、シ、ラン、オサシダ、カミガ

モシダ、ヒドツバ、ヌリトラノオ、ミヤマノコギ
リシダ、シノブ、

上のうち南方由来の顕著なる固有植物若くは腹地性
植物は播磨平地の奥地と丹後鶴湾との間に介在せる山
地にあり、杜寺林其他の山地に遺存す。

鹿倉山—妙高山—高小金山嶽—取山附近—
元伊勢岩戸山

特殊の礎岩地形には或一群の生態群落あらわす。

ホンシヤクナゲ、ヒカゲツツジ、クロシヨゴ、
セキコク、ヒナラン、シ、ラン、カミガモシダ、シ
ノブ、オサシダ、ヒドツバ、オオフジシダ、フジシ
ダ、ヌリトラノオ、

溪流には柳類、カワラハンノキを産し又サツキ、ニ
キヤナギを産する所あり。

○火成岩地方区

丹後、但馬の大部分之に属し、火成岩系統の地に
して、白山系火山、東西に走り成層火山とも見られる
火山岩深成岩及火山に由来する岩石より成り第三紀に
生じたる新らしき土地なり其沿海地方は海流の影響を
受けて植物相に特色あり之を別にして考うべし。

本地方区の代表植物は次の如し、

- スギ、スダジイ、モチノキ、ヤマモ、等○ケダ
- ハ、○ヨコグラノキ前出、○ビウガミヅキ、マルバ
- マンサノ、ツシマナ、カマド、○サイコクミツバ
- ツツジ、コバノミツバツツジ、○ヒヨウタンボク類
- ホツツジ、○ドクウツギ、ナガバネマガリダケ、ミ
- ヤマクマヤナギ、○クロタキカヅラ、ヒメモチ、
- フクジユウソウ、ヒロハクサレダマ、○オオモミ
- チガサ、○タニセリモドキ、キスゲ、ヤマブキシヨ
- ウマ、タウテイラン、イハギリソウ、○ウエマツソ
- ウ、ヤウラ克蘭、ムギラン、ベニシユスラン、ヤ